

H-7

属性叙述受動文の描く世界

三原健一 (大阪大学名誉教授・京都ノートルダム女子大学客員教授)

0. はじめに

- (1) a. 哲也は、自堕落な生活態度のことで父親に殴られた。(事象叙述受動文)
b. 村井三郎は、非常な読書家としてよく知られていた。(属性叙述受動文)
- (2) 益岡(1982=1987)
 - a. 昇格受動文：受影受動文・属性叙述受動文
 - b. 降格受動文

本発表の主論点：1. 潜在的認知者 2. 「ている」形 3. 状態性 4. 属性の起源

1. 潜在的認知者

受影：出来事の結果として、受動文主語が、心理的あるいは物理的影響を受けること
無生物主語の「に」受動文(動作主が「に」で標示される受動文) → 潜在的受影者

- (3) a. あの絵が子供に引き裂かれた。
b. 翌年、その寺が信長に焼き払われた。(益岡 1991:197)

天野(2002)：属性叙述受動文にも潜在的受影者を設定する

- (4) a. あの街は、よく暴走族にめちやくちやにされている。(天野 2002:34)
b. このペンは、イギリスの文豪チャールズ・ディッケンズに何度も使用された(ものである)。
(高見 1995:99) → 坪井(2002)の「箔つけ」

和栗(2005)：受影性とは無関係に属性を叙述する受動文のみを属性叙述受動文とする

「... 属性叙述受動文という「属性」とは、ある事態が生起した結果として得られた性質ではなく、事態が生起する以前からそのものが本来的に持っていた性質だと考える ...」(p.168)

- (5) a. 三上山は、手頃なハイキングコースとして多くの市民に親しまれている。
b. この山道は、江戸時代、京へ氷を運ぶ飛脚に利用されていた。(和栗 2005:164)

☞ 属性叙述受動文における潜在項を「受影者」として一括することに起因する問題

潜在的認知者 (implicit sentient)：属性叙述受動文で描写されている事象を認知する主体 (cf. Tenny 2006)

- (6) a. あの街は、よく暴走族にめちやくちやにされている。(潜在的受影者)
b. この雑誌は、10代の若者によく読まれている。(潜在的観察者)
c. 当時は今と違って、演歌は若者にはあまり歌われていなかった。(潜在的経験者)
d. 三上山は、手頃なハイキングコースとして多くの市民に親しまれている。(潜在的評価者)

2. 「ている」形

- (7) = (6)
- (8) a. ビリー・ホリデイは、悲しみに溢れた歌声を、多くのジャズファンに {愛されている / *愛される}。
b. 彼の弾くシューベルトは、朝靄のような情感に乏しく、音楽の核心から少し {隔てられている / *隔てられる} という感触を拭い去ることができない。

☞ 経歴の「ている」、履歴属性 (益岡 2008)

- (9) a. この山は、昔、山頭火にも登られている。(高見健一氏、私信)
b. 純米大吟醸は、1970年代の地酒ブームの際、多くの日本酒愛好家によく飲まれていた。

- c. 「渋谷系」という名称は、この時代、つまり 90 年代の半ばくらいまでに人気を博した一群の音楽を指すものとして、このところよく使われています。

3. 状態性

何が起こったの？ (What happened?)

- (10) a. 通行人が暴漢に襲われたんです。
 b. #この雑誌は、10 代の若者によく読まれているんです。
 c. #エビスビールは、比較的、収入の多い人に飲まれているようです。

「に」句

無生物主語の事象叙述受動文 (産出動詞以外)¹

- (11) a. あ！越乃寒梅があの野郎に飲まれちゃったぞ！
 b. 花壇がいたずら坊主に壊された。

属性叙述受動文

- (12) a. この雑誌は、{*太郎に / 10 代の若者に} よく読まれている。
 b. エビスビールは、{*田中さんに / 収入の多い人に} 飲まれているようだ。
 c. この山は、昔、山頭火にも登られている。 → 「も」の介在

☞ 属性叙述受動文での「に」句は動作主性が低い (→ 他動性が低い、cf. 坪井 2002)

疑似動作主

事象叙述受動文

- (13) a. 実家が、[二世住宅に改築するために]兄夫婦によって建て替えられた。
 b. 子分が、[親分を助けるために]自ら警察に逮捕された。

属性叙述受動文

- (14) a. この雑誌は、[社会的な教養を身に付けるために]一部の学生にはよく読まれているようだ。
 b. 格安航空券は、[手軽に空の旅を楽しむために]若い人たちによく利用されている。

程度副詞

非常に、極めて、極端に、はなはだ (しく)、すこぶる、とても、大変 (に)、たいそう、著しく、あまり (に)、いたって、至極、ごく (仁田 2002:165)

「(相対的な) 状態性の意味を持つ語にかかって、その程度を限定する副詞」(工藤 1983:177)

「属性 (質) や状態を表す成分に係ってその程度性を修飾・限定する」(仁田 2002:145)

☞ 程度副詞は状態性の語 (典型的には形容詞) を修飾する²

「中心的・典型的な程度副詞は形容詞を修飾・限定するものである」(仁田 2002:148)

¹ 産出動詞：作る、書く、焼く、掘る、建てる、煮る、弾く、歌う、貼る、盛る、掲げる …

(i) a. 砦が村人 {*に / によって} 作られた。

b. デザートには、有名なパティシエ {*に / によって} 焼かれたケーキをご用意しております。(日本語記述文法研究会 (編) 2009:222)

属性叙述受動文：産出動詞の場合でも「に」が可能

(ii) この種の推理小説は、日本の作家には一度も書かれたことがない。(益岡 1987:188)

² スケールを有する形容詞に限られる (程度副詞を併置して示す。以下同様) また、他動性の高い動詞では無理

(i) 非常に美しい、極めて難しい、極端に悪い、大変すばらしい、たいそう寒い

(ii) *非常に壊す、*大変読む、*とても煮る

程度副詞が動詞を修飾する場合もあるが、次のような場合に限定される (動詞の例は仁田 2002:171-180 による)。

(iii) a. 程度性を有する状態動詞：著しく異なる、とても似ている、極めて限られた

b. 非限界変化動詞：たいそう冷える、非常に高まっており、とても長ひいて

c. 「形容詞+なる」：非常に熱くなって、極めて危うくなった、著しく多くなっている

d. 心的活動動詞：非常に恐れている、とても困る

(iii)は、漸次的変化が進行して新たな状態に至る動詞で、程度副詞は新たな状態の程度を表す。(iii)は(ii)に準じる。心理動詞の(iii)は心的活動のあり様の程度を表す。程度副詞が動詞を修飾する場合、状態動詞か、変化結果あるいは心的活動の「状態の程度」を表し得る動詞に偏している。

- (15) a. タモリは、テレビに登場し始めた当初、一瞬でも早くチャンネルを変えたくなるほどに、世の女性たちに極端に嫌われていた。
b. 彼の弾くシューベルトは、朝靄のような情感に乏しく、音楽の核心から少し隔てられているという感触を拭い去ることができない。
c. 彼の見る世界は、希望と落胆、可能性と挫折、うまい酒と邪悪な女たちという、相反するものに異様に縁取りされている。
d. 部屋は、ロココ風の意匠で素晴らしく統一されていて、どこからかバロック音楽が聞こえてきそうな雰囲気に満ちていた。
e. 細野晴臣の今度のアルバムは、これまでの作品の中で、実際にはどこにも存在しない「天国のようなトロピカル」のイメージに最も貫かれています。
f. ルルーシュ監督の新作は、パリの場末的雰囲気が後退し、雨の日のシルクのような感触がこれまで以上に縫い込まれているように感じる。

4. 属性の起源

アフォーダンス (affordance) : 事物が環境の中で潜在的認知者に対して持つ意味 (cf. 本多 2005:56)⁴

- (16) 「本」
a. 読むもの
b. 枕として使用するもの
c. 燃やして暖を取るもの
- (17) 下記の条件(a)(b)(c)が全て成立するとき、属性叙述受動文が容認可能となる。
「この雑誌は、若い女性によく読まれている」
a. 属性叙述受動文が成立する前提条件：主語（「この雑誌」）は、百科事典的知識を基にする幾つかの行為の可能性を有し、その可能性は動詞の意味から読み取れるものでなければならない。
b. 潜在的認知者は、行為の可能性のうち、その属性叙述受動文が話題になっている環境（文脈）の中で、最適解と捉えるアフォーダンスを選択する
c. 潜在的認知者は、そのアフォーダンスを、属性として主語に照射する
- (18) 「この地方の笹は、上野動物園のパンダによく食べられる」（西村義樹氏、私信）
a. 環境：上野動物園のパンダが話題になっている場
b. 「この地方の笹」 → 「(パンダが) 食べる」 → 動詞の意味から読み取れる
c. 潜在的認知者 → 「上野動物園のパンダが食べる」というアフォーダンスを選択する → そのアフォーダンスを、属性として「この地方の笹」に照射する
- (19) 山田課長は気づいていないが、実は、経理課の数人の部下に煙たがられている。（高見 1995:124）
→ 「... この場合の「受影性」は主体が直接体験しているものではなく、表現者によって付与されている ...」（益岡 2000:62）
- (20) 属性叙述受動文の表す属性はアフォーダンスに対する最適解である。
- (21) a. 熊野古道は、平安朝の昔から多くの修験僧に歩かれている。
b. エビスビールは、比較的、収入の多い人に飲まれているようだ。
c. ビリー・ホリデイは、多くのジャズファンに愛されている。
d. 草間彌生は、水玉模様の前衛芸術で知られている。

³ (15a-f)の例は、元々は筆者が言語学書以外の書物から採集した実例であるが、いずれも筆者がかなりの修正を施したので、出典は敢えて割愛する。なお、(15a,b)は典型的な程度副詞、(15c,d)は他の品詞・単語類からの移行タイプ、(15e,f)は比較構文で用いる程度副詞（比較表現）の例である。

⁴ 「事物」には「人間」も含むものとする。また、ここでの「意味」とは、事物が認知者に供する「行為の可能性」（例えば、「椅子」がアフォードする「座る」という行為）を指す。

5. 潜在的認知者の地平

虚構移動 (fictive motion; Talmy 1996、松本 1997)

- (22) a. あの山脈はどういう方角にあるんでしょう？
b. あれは、私たちから見て、南北に {走っているんです / *走るんです}。

第四種動詞 (金田一 1950=1976)

- (23) a. 彼は父親に {似ている / *似る}。
b. この道は {曲がっている / *曲がる}。

属性叙述 (property predication) <==> 事象叙述 (event predication)

「(属性叙述と事象叙述が) 別個の世界を形成し、それぞれが独自の構造様式と意味機能を有しているのではないか」
(影山 2009:9)

「(日本語の主題文では、事象叙述文ではなく) 属性叙述文が文構成の基本モデルになっている」(益岡 2004:14)

喫緊の課題

1. 属性叙述文における「属性」とは何か？
2. 潜在的認知者と統語構造

参 照 文 献

天野みどり(2002)『文の理解と意味の創造』笠間書院。

影山太郎(2009)「言語の構造制約と叙述機能」『言語研究』第136号。

金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『言語研究』第15号。

金田一春彦(1976) (編)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房。

工藤浩(1983)「程度副詞をめぐって」渡辺実 (編)『副用語の研究』明治書院。

坪井栄治郎(2002)「受影性と受身」西村義樹 (編)『シリーズ言語科学2 認知言語学I: 事象構造』東京大学出版会。

仁田義雄(2002)『副詞的表現の諸相』くろしお出版。

日本語記述文法研究会(2009) (編)『現代日本語文法② 格と構文 ヴォイス』くろしお出版。

本多啓(2005)『アフォーダンスの認知意味論—生態心理学から見た文法現象—』東京大学出版会。

益岡隆志(1982)「受動文の意味分析」『言語研究』第82号。

益岡隆志(1987)『命題の文法—日本語文法序説—』くろしお出版。

益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版。

益岡隆志(2000)『日本語文法の諸相』くろしお出版。

益岡隆志(2004)「日本語の主題—叙述の類型の観点から—」益岡隆志 (編)『シリーズ言語対照5 主題の対照』くろしお出版。

益岡隆志(2008)「叙述類型論に向けて」益岡隆志 (編)『叙述類型論』くろしお出版。

松本曜(1997)「第II部 空間移動の言語表現とその拡張」中右実 (編) 田中茂範・松本曜 (著)『空間と移動の表現』研究社出版。

高見健一(1995)『機能的構文論による日英語比較—受身文、後置文の分析—』くろしお出版。

和栗夏海(2005)「属性叙述受動文の本質」『日本語文法』5巻2号。

Talmy, Leonard (1996) Fictive Motion in Language and “Ception”. In *Language and Space*. (eds.) Paul Bloom, Mary A. Peterson, Lynn Nadel and Merrill F. Garrett. MIT Press.

Tenny, Carol L. (2006) Evidentiality, Experiencers, and the Syntax of Sentience in Japanese. *Journal of East Asian Linguistics* 15(3).

E-mail: ken-ichi921@email.plala.or.jp